

- 阿武隈川水系釈迦堂川等が令和6年3月26日に特定都市河川及び特定都市河川流域の指定になったことから、流域水害対策計画の策定に向けた「釈迦堂川流域水害対策協議会」の発足会を令和6年5月31日に開催。
- 協議会では、流域水害対策計画に定める事項や浸水被害対策の基本的な考え方、計画策定に向けた今後のスケジュール等について事務局より説明し、意見交換を行った。

あげもり
東北地方整備局 上森副局長

- この協議会において、さらなる治水対策の加速化や、流出抑制対策の強化を行い、「地域を”みず”から守る」流域治水の取り組みをより一層推進し、釈迦堂川流域のモデルが福島県内はもとより、全国に発信していけるよう、関係機関の皆様と連携し、流域水害対策に取り組んで参りたい。

あさおか
日本大学 朝岡教授（座長）

- 釈迦堂川および阿武隈川本川では何度も甚大な被害が発生しており、浸水被害を最小限にとどめ、速やかに復旧できる体制が望まれている。これらを実現するために流域のあらゆる関係者が協力する流域治水の推進が必要である。
- 流域内の関係者が集まる本協議会は、重要な役割を担っており、釈迦堂川流域の自然特性や地域性を踏まえ、実行性のある流域水害対策計画を検討していきたい。

かがみいしまち とくさ
鏡石町 木賊町長

- 鏡石町は、現在、阿武隈川の流域治水ということで遊水地整備に協力している。
- 釈迦堂川流域水害対策計画の中に、遊水地整備による阿武隈川本川の水位低下効果が釈迦堂川にどのように影響するか表記しておくことが必要。

すかがわし はしもと
須賀川市 橋本市長

- 須賀川市で田んぼダムの取り組みを進めているところ。上流側においても、一時的に少しでも貯留という機能を充実させていただくということも大変期待をしている。
- 阿武隈川下流域の減災の一助となる浜尾遊水地を有する須賀川市であるため、様々な制約を受ける上流域の苦悩と、大雨のために不安を感じ、何度も被害を受けてきた下流域の苦しみと、どちらも理解する立場として、流域治水の必要性を発信するとともに、水害対策事業に取り組んでいく。

てんえいむら そえた
天栄村 添田村長

- 釈迦堂川上流域の対策として、遊休地や耕作放棄地の整備、龍生ダムの浚渫と機能強化、ため池の活用といった対応策があり、下流域に影響を及ぼさない対応ができるかと思っている。
- 整備については大変なこともあるので、いろいろと意見交換しながら進めていきたいと思う。

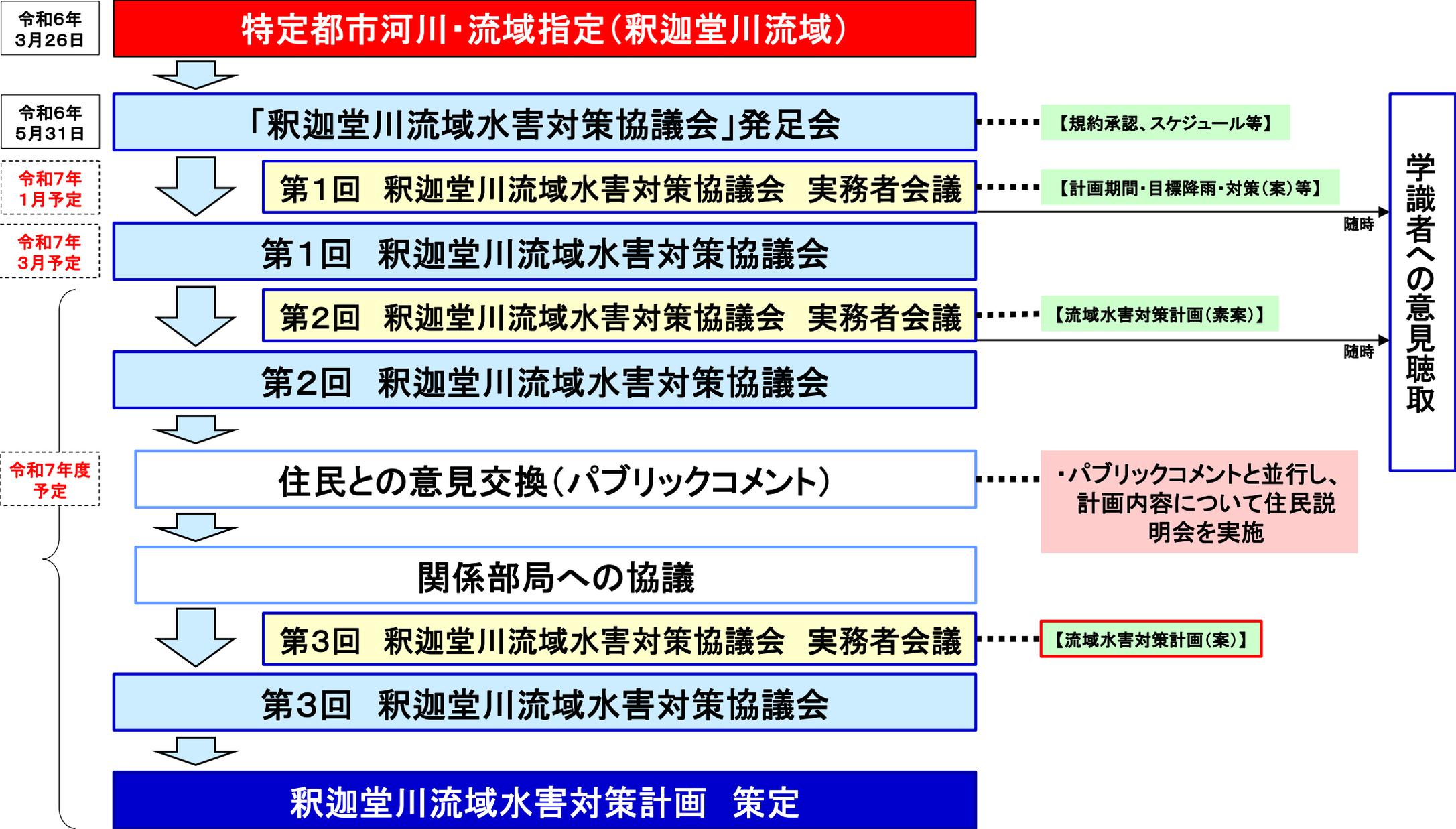


【出席者】上記写真左から

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ① 東北地整 上森副局長（代理） | ⑨ 鏡石町 木賊町長 |
| ② 東北農政局 松尾地方参事官（代理） | ⑩ 福島大学 川越教授 |
| ③ 矢吹町 鈴木副町長（代理） | ⑪ 泉崎村 箭内村長 |
| ④ 白河市 鈴木建設部長（代理） | ⑫ 西郷村 真船副村長（代理） |
| ⑤ 天栄村 添田村長 | ⑬ 福島地方気象台 平野台長 |
| ⑥ 日本大学 市岡専任講師 | ⑭ 福島森林管理署白河支署 佐藤支署長 |
| ⑦ 須賀川市 橋本市長 | ⑮ 福島県 高萩部参事（代理） |
| ⑧ 日本大学 朝岡教授 | |

流域水害対策計画策定に向けた今後のスケジュール

赤字:発足会時点から更新



- 令和6年7月1日に特定都市河川として施行した阿武隈川水系逢瀬川流域や谷田川流域の流域水害対策計画の策定に向けた「逢瀬川流域水害対策協議会」及び「谷田川流域水害対策協議会」の発足会を令和6年10月15日に開催しました。
- 協議会では、流域水害対策計画に定める事項や浸水被害対策の基本的な考え方、計画策定に向けた今後のスケジュール等について事務局より説明し、意見交換を行いました。
- 発足会における各委員の意見等を踏まえ、逢瀬川流域・谷田川流域水害対策計画の策定へ向けた検討を進めてまいります。

【各委員からの意見等】



^{やざわ}福島県 土木部 矢澤部長

- 今回、設置する逢瀬川及び谷田川流域水害対策協議会は、本県が設置する初めての協議会である。
- 逢瀬川や谷田川はもとより、本県全域における気候変動対策に向けて、重要な協議会となることから、委員の皆様におかれましては、それぞれの御立場から、幅広い御意見をお願いしたい。



^{あさおか}日本大学 朝岡教授（座長）

- 逢瀬川、谷田川は、阿武隈川からの影響を受けやすい。
- このため、逢瀬川や谷田川流域だけでなく、阿武隈川流域の治水対策の状況を見通しつつ、関係者と連携しながら流域水害対策計画を策定することが重要である。
- 激甚化する豪雨により計画規模を上回る水害が発生した場合でも、被害を最小限に抑える対策や早期復旧できる対策について議論する必要がある。



^{こおりやまし} ^{しながわ}郡山市 品川市長

- 逢瀬川や谷田川の流域治水を進めるためには、本川をはじめとした阿武隈川水系での治水対策が重要だ。
- また、都市計画や農業などの関係分野間の連携が必要。
- 河川管理者が分かるように、河川に看板を設置して欲しい。



【出席者】上記写真左から

- | | |
|----------------------|------------------|
| ① 福島河川国道事務所 秋田課長(代理) | ⑥ 郡山市 品川市長 |
| ② 福島地方気象台 平野台長 | ⑦ 郡山市消防団 七海団長 |
| ③ 日本大学 市岡専任講師 | ⑧ 郡山女子大学 近内講師 |
| ④ 郡山商工会議所女性会 藤田副会長 | ⑨ 郡山市上下水道局 野崎管理者 |
| ⑤ 福島大学 川越教授 | ⑩ 福島県 農林水産部 沖野部長 |
| | ⑪ 福島県 土木部 矢澤部長 |

【出席者(オンライン)】

- | | |
|-----------------|----------------|
| ○ 日本大学 朝岡教授 | ○ 平田村 阿部課長(代理) |
| ○ 須賀川市 小林課長(代理) | ○ 福島森林管理署 高木署長 |

流域水害対策計画策定に向けた今後のスケジュール

